

琉球大学学術リポジトリ

[巻頭言] 研究テーマの焦点

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大城, 喜信, Oshiro, Kishin メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015436

巻 頭 言

－ 研究テーマの焦点 －

副会長 大 城 喜 信

国内の農業は、近未来の農産物の完全輸入自由化に向けて、多くの新しい取組みが多面的に実践されつつある。その中には、新しい技術によって解決を図らなければならない分野も多い。その1例としては、低コスト高付加価値化をめざす動きである。国の政策でも環境保全型農業がうたわれているなかで東風平町においては、自らの実践の結果にもとずいて、去る4月に“有機の里”を宣言し、新しい農業のあり方を追求している。

これは、今までの化学肥料・農薬を基本とする技術を根本的に見直して、有効微生物を活用した有機農業による新しい農業への取組みである。この技術は、まだ解決すべき多くの課題をかかえているが、現場の段階ですですに実用に耐え得る成果が得られているといえよう。しかも、この技術は、10年以上も前から研究が着手されたものであり、輸入の枠が拡大されつつある現在、地域農業に対する力強い支援技術として注目されているところに大きな特徴があるといえよう。

このような大きな社会情勢の変化に呼応して出現する新しい技術は、研究着手当初は焦点が定まっていないうに見受けられがちであるが、時間の経過とともにテーマの焦点がしっかりと絞り込まれていくものと私は感じているところである。研究者は常に時代の先を読み、研究テーマの焦点が時代の変化に対応してそのニーズに合っているかどうかを常に検証しながら研究を推進する必要に迫られているものである。沖縄農業の研究に従事している関係者の一層の奮起に期待したい。